

広告・メディア・エンタテインメント

1. 評価対象企業（24 社）

【広告・メディア】（11 社）

博報堂 DY ホールディングス、電通グループ、フジ・メディア・ホールディングス、リクルートホールディングス、TBS ホールディングス、日本テレビホールディングス、テレビ朝日ホールディングス、テレビ東京ホールディングス、KADOKAWA、東宝、東映

【エンタテインメント】（13 社）

ディー・エヌ・エー(新規)、コーエーテクモホールディングス、ネクソン、コロプラ、オリエンタルランド、サイバーエージェント(新規)、セガサミーホールディングス、バンダイナムコホールディングス、任天堂、エイチ・アイ・エス、スクウェア・エニックス・ホールディングス、カプコン、コナミグループ

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

（1）評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	2	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	2	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	10
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	4	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	10
計		11	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2）評価実施アナリストは 34 名（所属先 26 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1）総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、新規に企業を加えたほか、一部の項目内容を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 69.6 点（昨年度 64.6 点）、総合評価点の標準偏差は 6.3 点（昨年度 8.1 点）となった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、広告・メディア（11 社）が 67.6 点（昨年度 64.0 点）、エンタテインメント（13 社）が 71.0 点（昨年度 65.2 点）となった。なお、個社で見ると、エイチ・アイ・エス（+15.9）の上昇が目立った。

- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、経営陣のIR姿勢等が70%（昨年度67%）、説明会等が71%（昨年度64%）、フェア・ディスクロージャーが76%（昨年度70%）、ESG関連が69%（昨年度65%）、自主的情報開示が60%（昨年度54%）となった。昨年度に比べ、5分野全において平均得点率が改善した。
- ④ 評価項目（全11項目）について見ると、次のフェア・ディスクロージャーの中の1項目が80%以上の平均得点率となり、高水準であった。
- ・ 「経営陣およびIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか」（平均得点率86%〔昨年度77%〕）（得点率（評価点／配点（以下省略））：70%台3社・80%台13社・90%台8社）
- ⑤ 一方、次の自主的情報開示の項目は、昨年度に比べ平均得点率が改善したものの、引き続き最も低い水準となった。下位評価企業には、さらなる改善努力を求めたい。
- ・ 「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IRデーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それは有益ですか」（平均得点率60%〔昨年度54%〕）（得点率：20%台2社・30%台1社・40%台4社・50%台6社・60%台6社・70%台5社）
- ⑥ ESG関連の4項目は、次のとおりとなった。なお、(d)は昨年度に比べ平均得点率が改善したが、60%台にとどまった。
- (a) 「統合報告書等を通じ、ESGに関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか。その中で、価値創造プロセスおよび経営の重要課題（マテリアリティ）の設定が行われ、開示されていますか」（平均得点率75%〔昨年度69%〕）（得点率：50%台1社・60%台5社・70%台11社・80%台6社・90%台1社）
 - (b) 「環境保全（E）に関する問題・課題を企業、経営として認識し、中長期的な改善・解決に向けた取り組み等を適切に開示していますか」（平均得点率72%〔昨年度68%〕）（得点率：50%台1社・60%台5社・70%台16社・80%台2社）
 - (c) 「社会（S）に関する問題・課題を企業、経営として認識し、中長期的な改善・解決に向けた取り組み等を適切に開示していますか（例えば、人材戦略や給与の決定方針、従業員エンゲージメントや人権リスクなどの人的資本に関する事項を定量的・積極的に開示していますか）」（平均得点率70%〔昨年度71%〕）（得点率：50%台1社・60%台11社・70%台9社・80%台3社）
 - (d) 「ガバナンス（G）に関する問題・課題を企業、経営として認識し、中長期的な改善・解決に向けた取り組み等を適切に開示していますか。不祥事等が発生した際に適切に対応し開示していますか。また、社外取締役の選定・役割が適切で、ガバナンスの有効性や資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示・現預金保有の理由等）、株主還元策等が説明されていますか。これらの課題に関して、投資家の理解が深まるように、積極的に対話を進めていますか」（平均得点率63%〔昨年度56%〕）（得点率：40%台1社・50%台6社・60%台11社・70%台5社・80%台1社）

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 パンダイナムコホールディングス（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、

総合評価点77.7点〔昨年度比+3.5点〕、昨年度第3位）

- ① 同社は、経営陣のIR姿勢等が第2位（得点率（以下省略）79%）、ESG関連（77%）、自主的情報開示（78%）が第3位、説明会等が第5位（77%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第8位（77%）となった。昨年度に比べて、5分野全において得点率が改善した。
- ② 経営陣のIR姿勢等においては、「経営陣のIR姿勢」が最も高い評価（80%）となったほか、「IR部門の機能、基本スタンス」は同得点第9位（77%）となった。これらに関連して、経営陣による積極的なIR活動として、CEOなどが四半期ごとの説明会や投資家面談、マネジメントミーティングを通じて経営戦略や資本政策に関する対話を積極的に行っていることに加え、IRへの高い意識と投資家との建設的なコミュニケーションを評価する声が寄せられた。また、IR部門には分析に必要な情報が十分に集約されており、IR担当者の専門性の高さや、定量データを交えた説明による有益なディスカッションが行われていることに加え、説明内容の信

頼性が高く、アナリスト・投資家のニーズに前向きに対応している点や、IR 部門と経営陣の連携の良さを評価する声があった。

- ③ **説明会等**においては、「説明会、インタビューにおける開示」(76%) および「説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示」(78%) は共に同得点第 5 位となった。これらに関連して、決算説明会やインタビューには各事業の責任者が参加し、説明が丁寧であることに加え、事業への理解を深められる点を評価する声が寄せられた。なお、説明会では定性的な説明が中心となることがあり、数値面の理解を深めるためのさらなる説明を望む声もあった。また、説明会資料や補足資料については、分析に必要な情報や数値が概ね充実しており、質・量ともに高い水準の開示が行われ、分析に役立つ点を評価する声が寄せられた。なお、IP(知的財産)別の業績データや主要ゲームタイトルの販売本数、トレーディングカード売上高など、業績予想や事業分析に有用な重要 KPI のさらなる開示充実を望む声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢」は同得点第 7 位(70%)、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第 9 位(88%) となった。これらに関連して、経営陣および IR 部門が、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、投資家に対して公平な情報開示と対話機会の提供に努めている点を評価する声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「ガバナンス(G)に関する項目」が第 2 位(75%)、「社会(S)に関する項目」が第 4 位(78%)、「統合報告書等に関する項目」が同得点第 4 位(82%)、「環境保全(E)に関する項目」が同得点第 5 位(77%) であった。これらに関連して、ESG に関する情報開示については、統合報告書を通じて ESG 情報の発信に積極的に取り組んでいることに加え、業界内でも分かりやすく、企業の魅力が伝わる開示内容を評価する声が寄せられた。なお、最適な資本構成や余剰資金保有の必要性に関する説明の充実、ならびに女性活躍やプラスチックリサイクルなど主要 ESG 項目における目標値の開示を望む声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会(IR デーや記者発表会等を含む)を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は第 3 位(78%) となった。これに関連して、本社・工場見学会やホビーセンター見学会、大阪・関西万博のガンダムパビリオン視察など、事業や製品・サービスへの理解を深める投資家向けの説明機会が豊富に設けられており、有益な情報提供の場となっていることを評価する声が寄せられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 セガサミーホールディングス (総合評価点 77.3 点 [昨年度比-1.1 点]、昨年度第 1 位)

- ① 同社は、**説明会等**が第 1 位(得点率〈以下省略〉85%)、**経営陣の IR 姿勢等**が同得点第 3 位(78%)、**自主的情報開示**が第 5 位(75%)、**ESG 関連**が第 6 位(73%)、**フェア・ディスクロージャー**が同得点第 10 位(76%) となった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が同得点第 3 位(77%) となり、「IR 部門の機能、基本スタンス」は同得点第 4 位(81%) となった。これらに関連して、経営陣は決算説明会や経営説明会などを通じて投資家・アナリストとの対話に積極的に取り組み、市場参加者の意見を経営に反映しようとする姿勢や、株主還元を含めた施策を着実に実行している点を評価する声が寄せられた。なお、オンラインカジノ事業の立て直しに向けた取り組みについては、市場の理解・共感を深めるための継続的な説明を望む声もあった。また、IR 部門には十分な情報が集積されており、細かなデータを含む幅広い情報提供が行われていることに加え、IR 担当者の高い専門性や事業への深い理解に基づく丁寧で分かりやすい説明により、有益なディスカッションが実現している点を評価する声が寄せられた。このほか、IR 部門と経営陣の連携が密接であることを評価する声が寄せられた。
- ③ **説明会等**においては、「説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示」が最も高い評価(89%) となったほか、「説明会、インタビューにおける開示」は第 2 位(81%) となった。これらに関連して、説明会資料や開示資料は質・量ともに充実しており、細部にわたる情報開示が分析に有用である点を評価する声が寄せられた。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第 9 位(88%)、「タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢」が第 10 位(68%) となった。これらに関連し

て、遊技機の新タイトル発表をはじめとする適時・タイムリーな情報開示が行われており、フェア・ディスクロージャーへの配慮がなされている点を評価する声が寄せられた。

- ⑤ **ESG 関連**においては、「環境保全 (E) に関する項目」が同得点第 3 位 (78%)、「社会 (S) に関する項目」は第 5 位 (75%)、「統合報告書等に関する項目」が同得点第 8 位 (77%)、「ガバナンス (G) に関する項目」は第 9 位 (65%) となった。これらに関連して、統合報告書を通じて ESG 情報の開示に積極的に取り組んでいることに加え、最適資本構成など財務面の視点を取り入れた情報開示を評価する声が寄せられた。なお、ゲーミング事業への投資については資本市場の一部から懸念が示されており、事業ポートフォリオや資本配分の考え方に関するより丁寧な説明を望む声もあった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会 (IR デーや記者発表会等を含む) を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は第 5 位 (75%) となった。充実していた投資家との対話機会として、マネジメントミーティングの定期的な開催を挙げる声が寄せられた。

第 3 位 東宝 (総合評価点 77.0 点 [昨年度比+5.6 点]、昨年度第 7 位)

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等が第 1 位 (79%)、自主的情報開示が同得点第 1 位 (79%)、フェア・ディスクロージャーが第 2 位 (83%)、説明会等が同得点第 3 位 (79%)、ESG 関連が第 9 位 (71%) となった。昨年度に比べて、5 分野全てにおいて得点率が改善した。なかでも自主的情報開示の得点率が大きく改善した。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が第 2 位 (78%)、「IR 部門の機能、基本スタンス」は第 3 位 (83%) となった。これらに関連して、副社長兼 CFO を中心に経営陣が IR 活動に積極的に取り組み、説明会やマネジメントミーティングなどを通じて、経営戦略や資本政策に関する対話機会を充実させていることに加え、投資家の関心事項を踏まえた開示の拡充や IR 体制の整備を進めている点を評価する声が寄せられた。なお、社長との対話機会のさらなる充実を望む声もあった。また、IR 部門には十分な情報が集積されており、高い専門性に基づく丁寧な説明や、細かな定量データを含む積極的な情報開示を通じて、投資家との有益なディスカッションが行われていることに加え、現場見学会の開催や説明会動画・質疑応答の公開など、企業理解の促進とフェア・ディスクロージャーへの配慮を評価する声が寄せられた。また、企業価値向上に向けた対話や意見交換が以前より活発になっている点を評価する声があった。
- ③ **説明会等**においては、「説明資料等 (短信およびその付属資料を含む) における開示」が同得点第 2 位 (79%)、「説明会、インタビューにおける開示」は第 4 位 (79%) となった。これらに関連して、説明会資料や開示資料は質・量ともに充実しており、アニメ関連を含む開示内容の拡充や、会社計画の前提となる映画興行収入・市場シェア想定の開示、丁寧で分かりやすい説明が投資判断に有用である点を評価する声が寄せられた。なお、業績予想の作成に必要なデータが複数の資料や階層に分散しており分かりにくいことに加え、アニメ事業に関する数値データについては遡及開示の充実を望む声もあった。また、決算説明会や質疑応答での対応には改善の余地があるが、取材等を通じた丁寧なフォローアップにより理解を深められる点や、海外事業・アニメ事業に関する説明の改善を評価する声が寄せられた。なお、会社のみが保有する作品情報などを前提とした説明は投資家に伝わりにくい面があり、説明会だけで決算内容を十分に理解できるよう、より分かりやすい説明を望む声もあった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢」は同得点第 1 位 (80%)、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第 9 位 (88%) となった。これらに関連して、経営陣および IR 部門は、投資判断や株式保有状況にかかわらず公平な情報開示と対話機会の提供に努めており、説明会関連資料のホームページでの公開などフェア・ディスクロージャーへの十分な配慮を評価する声が寄せられた。また、映画興行や営業成績の月次開示が現状把握や分析に有用である点を評価する声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、「ガバナンス (G) に関する項目」が第 8 位 (67%)、「社会 (S) に関する項目」は同得点第 10 位 (71%)、「環境保全 (E) に関する項目」が同得点第 11 位 (72%)、「統合報告書等に関する項目」は第 14 位 (75%) であった。これらに関連して、アニメ事業などの成長力や経営陣の執行力に加え、統合報告書やサステナビリティに関する開示内容が充実しており、ESG 情報や基本方針が分かりやすく整理されている点を評価する声が寄せられた。また、近年の ESG 開示の進展や人材基盤の強化に向けた取り組みを評価する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会 (IR デーや記者発表会等を含む) を投資家向けにも設けており、それが有益であること」が同得点第 1 位 (79%) となった。これ

に関連して、スタジオ見学会や本社見学会、TOHO シネマズ大井町見学会、アニメ・IP 事業説明会など、事業やコンテンツへの理解を深める投資家向けの説明機会が豊富に設けられており、特に東宝スタジオや撮影所の見学会、業界動向の把握に役立つ「FACT BOOK」の提供が有益である点を評価する声が寄せられた。なお、スタジオ見学会の継続的な開催や参加機会の拡充を望む声があった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ **エイチ・アイ・エス（ディスクロージャーの改善が著しい企業、
総合評価点 75.7 点〔昨年度比+15.9 点、一昨年度比+17.4 点〕、第 5 位〔昨年度第 15 位、一昨年度第 15 位〕）**

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが第 1 位（86%）、経営陣の IR 姿勢等（78%）、説明会等（79%）が同得点第 3 位、ESG 関連（72%）、自主的情報開示（62%）が第 7 位となった。昨年度に比べて、5 分野全てにおいて得点率が改善し、総合評価点が 15.9 点のアップとなった。なかでも、経営陣の IR 姿勢等、説明会等および自主的情報開示の得点率が著しく改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能、基本スタンス」が最も高い評価（昨年度第 19 位）となった。これに関連して、IR 部門には十分な情報が集積されており、説明会資料等の開示においてもフェア・ディスクロージャーへの配慮がなされていることを評価する声が寄せられた。また、IR 担当者が質問に丁寧かつ柔軟に対応し、有益なディスカッションができていることを評価する声があった。「経営陣の IR 姿勢」は第 8 位（昨年度第 19 位）となった。これに関連して、経営陣の IR 姿勢は積極的であり、開示情報が充実していることを評価する声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」が最も高い評価（昨年度第 19 位）となり、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」は同得点第 8 位（昨年度第 20 位）となった。これらに関連して、決算説明会における説明内容や質疑応答が総じて充実しており、質問に対して適切かつ的確な回答がなされていることを評価する声が寄せられた。また、事業内容が多岐にわたる中でも、必要な説明や情報提供が行われていることを評価する声があった。なお、説明資料等について、国内・海外旅行事業の内訳開示を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が最も高い評価となったほか、「タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢」も同得点第 1 位となった。これらに関連して、ホームページでの説明会関連資料の開示など、フェア・ディスクロージャーへの取り組みが十分に行われていることや、IR 担当者が投資家との窓口として十分に機能していることを評価する声が寄せられた。また、月次資料を継続的に公開しており、事業動向を把握しやすい情報開示がなされていることを評価する声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「統合報告書等に関する項目」が同得点第 2 位（昨年度同得点第 6 位）となったほか、「ガバナンス（G）に関する項目」は第 6 位（昨年度同得点第 16 位）となり、昨年度に比べ得点率が大きく改善した。これらに関連して、ESG 関連の開示が充実しており、事例紹介を含めた情報発信が行われていることを評価する声が寄せられた。
- ⑥ 自主的情報開示の「会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IR デーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それが有益であること」は、第 7 位（昨年度第 16 位）となり、昨年度に比べ得点率が大きく改善した。有益なイベントとして、ホテル事業説明会・見学会を挙げる声があった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

以 上

2026年度 ディスクロージャージャー評価比較総括表 (広告・メディア・エンタテインメント)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価項目2 (配点 30点)	評価点	順位	評価点	順位	評価項目4 (配点 30点)	評価点	順位	
1	7832 バンダイナムコホールディングス	77.7	23.6	2	15.4	5	7.7	8	23.2	3	7.8	3	3
2	6460 セガサミーホールディングス	77.3	23.4	3	17.0	1	7.6	10	21.8	6	7.5	5	1
3	9602 東宝	77.0	23.8	1	15.8	3	8.3	2	21.2	9	7.9	1	7
4	9697 カブコン	76.7	23.4	3	15.9	2	8.2	3	23.5	2	5.7	13	4
5	9603 エイチ・アイ・エス	75.7	23.4	3	15.8	3	8.6	1	21.7	7	6.2	7	15
6	3635 コーエーテックモホールディングス	75.2	22.9	6	15.2	6	8.1	4	22.9	4	6.1	8	11
7	6098 リクルートホールディングス	74.3	21.8	8	14.2	12	7.3	17	24.9	1	6.1	8	5
8	4661 オリエンタルランド	71.2	21.6	9	14.5	9	7.5	12	19.7	18	7.9	1	8
9	7974 任天堂	69.4	21.2	15	14.4	10	7.9	6	19.5	19	6.4	6	6
10	3668 コロプラ	68.7	20.8	16	14.2	12	7.2	19	22.2	5	4.3	21	16
10	4751 サイバーエージェント	68.7	20.3	18	13.1	18	7.2	19	20.5	12	7.6	4	—
12	4324 電通グループ	68.5	21.3	14	13.7	15	7.4	13	21.3	8	4.8	18	9
13	2432 ディー・エス・エー	68.2	21.6	9	12.7	19	7.3	17	21.1	10	5.5	14	—
14	4676 フジ・メディア・ホールディングス	68.1	21.5	11	14.1	14	7.1	23	20.0	15	5.4	15	18
15	9401 TBSホールディングス	68.0	22.8	7	14.3	11	7.2	19	20.1	14	3.6	22	10
16	9468 K A D O K A W A	67.6	20.1	19	14.6	8	7.6	10	20.0	15	5.3	16	2
17	2433 博報堂DYホールディングス	66.8	19.6	21	12.7	19	7.4	13	21.1	10	6.0	10	13
18	3659 ネクソン	66.6	21.5	11	15.0	7	7.2	19	16.9	23	6.0	10	13
19	9605 東映	66.5	20.6	17	12.6	21	7.7	8	19.8	17	5.8	12	19
19	9766 コナミグループ	66.5	21.5	11	13.5	17	7.8	7	18.5	22	5.2	17	12
21	9413 テレビ東京ホールディングス	63.9	20.1	19	13.6	16	8.0	5	19.4	20	2.8	23	—
22	9684 スクウェア・エニックス・ホールディングス	60.5	16.7	22	12.1	22	6.6	24	20.4	13	4.7	19	20
23	9409 テレビ朝日ホールディングス	56.7	14.2	24	11.8	23	7.4	13	18.7	21	4.6	20	21
24	9404 日本テレビホールディングス	53.5	15.3	23	11.2	24	7.4	13	16.8	24	2.8	23	17
	評価対象企業評価平均点	69.59	21.13		14.17		7.56		20.74		5.99		

2026年度の具体的評価項目および配点（広告・メディア・エンタテインメント）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（30点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が、IR活動に注力していますか。例えば、IR対応組織を整備したり、自らミーティング等を通じて経営戦略や資本政策を積極的に説明していますか。また、経営陣は、IR活動で得られた知見や意見を経営活動に活かし、株主価値向上に努めていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	20
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
・IR部門に十分な情報が集積されており、フェア・ディスクロージャー・ルールを遵守したうえで、IR担当者と有益なディスカッションができていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
・決算説明会やインタビューにおける会社側の説明および質疑応答は十分に満足できるものですか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
・説明資料等（決算説明資料を含む）で、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な主要項目（各事業のKPI等）の実績および見通しは、ウェブ等を活用し、十分かつ継続性を持って開示されていますか。また、アナリスト・投資家の分析・投資判断に有用な情報（経営環境、事業戦略、資本政策等）が、分かりやすくかつ十分に記載されていますか。	10
3. フェア・ディスクロージャー（10点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が情報開示に際し、投資判断や株式保有状況等にかかわらず、公平な機会を与えることに十分な注意を払っていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	4
(2)タイムリー・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・アナリスト・投資家にとって重要と判断される事項（例えば、月次売上高および重要指標の月次動向、業績修正発表、新サービス・新技術・新製品、設備投資計画の変更、M&A、自然災害の影響、会社にとって不都合な事象等）の開示は、迅速かつ十分ですか。	6
4. ESGに関連する情報の開示（30点）	配点
①統合報告書等を通じ、ESGに関連する情報を積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか。その中で、価値創造プロセスおよび経営の重要課題（マテリアリティ）の設定が行われ、開示されていますか。	6
②環境保全（E）に関する問題・課題を企業、経営として認識し、中長期的な改善・解決に向けた取組み等を適切に開示していますか。	6
③社会（S）に関する問題・課題を企業、経営として認識し、中長期的な改善・解決に向けた取組み等を適切に開示していますか（例えば、人材戦略や給与の決定方針、従業員エンゲージメントや人権リスクなどの人的資本に関する事項を定量的・積極的に開示していますか）。	8
④ガバナンス（G）に関する問題・課題を企業、経営として認識し、中長期的な改善・解決に向けた取組み等を適切に開示していますか。不祥事等が発生した際に適切に対応し開示していますか。また、社外取締役の選定・役割が適切で、ガバナンスの有効性や資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション、現預金使途開示・現預金保有の理由等）、株主還元策等が説明されていますか。 これらの課題に関して、投資家の理解が深まるように、積極的に対話を進めていますか。	10
【ESGに関連する情報の開示に関し、評価した理由あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入してください（新たな追加項目で企業も関心が高い項目なので、積極的にコメントしてください）】	
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（10点）	配点
・会社の注目されるサービスないし施設・設備・事業を紹介する機会（IRデーや記者発表会等を含む）を投資家向けにも設けており、それは有益ですか。〔過去1年間を目安に評価〕 【充実していたサービスないし施設・設備・事業名をコメント欄に記入して下さい】	10

広告・メディア・エンタテインメント専門部会委員

部 会 長	前田 栄二	SMBC 日興証券
部会長代理	城戸 謙治	アセットマネジメント One
	大場 剛平	野村アセットマネジメント
	岸本 晃知	みずほ証券
	森 はるか	ゆうちょ銀行
	山村 淳子	JP モルガン証券

評価実施アナリスト（34 名）

安部 将行	大和証券	長尾 衛	三菱 UFJ アセットマネジメント
井澤 宏之	SBI 岡三アセットマネジメント	滑川 晃	シュローダー・インベストメント・マネジメント
石橋 剛	三井住友 DS アセットマネジメント	原畑 亮平	野村証券
板倉 充知	SOMPO アセットマネジメント	久田 有貴	三井住友トラスト・アセットマネジメント
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント	福井 悠香	第一生命保険
大場 剛平	野村アセットマネジメント	藤原 重良	SOMPO アセットマネジメント
奥村 裕介	岡三証券	宝水 裕圭里	SBI 証券
尾坂 拓也	モルガン・スタンレー MUFG 証券	前田 栄二	SMBC 日興証券
巖 智用	野村証券	三木 成人	野村証券
河内 亮	丸三証券	森田 正司	岡三証券
川崎 朝映	岩井コスモ証券	森 はるか	ゆうちょ銀行
岸本 晃知	みずほ証券	安田 秀樹	東洋リサーチアドバイザー
城戸 謙治	アセットマネジメント One	山科 拓	マツコーリーキャピタル証券会社
熊澤 伸悟	大和証券	山村 淳子	JP モルガン証券
高 英詞	野村アセットマネジメント	山本 将	三菱 UFJ 信託銀行
阪口 和輝	大和証券	米島 慶一	シティグループ証券
佐竹 一仁	ニッセイアセットマネジメント	渡辺 洋之	三井住友 DS アセットマネジメント

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。